

【公開用】

令和８年度第１回茅ヶ崎市史編さん・特定歴史公文書等 管理委員会会議録

議題	１ 委員長・副委員長の選出について ２ 令和７年度の事業報告について ３ 令和８年度の事業計画について ４ 保存期間が満了する行政文書の廃棄について（諮問）（非公開）
日時	令和８年７月５日（日）１０時から１１時２０分まで
場所	茅ヶ崎市役所 分庁舎５階 Ｆ会議室
出席者氏名	北村誠委員長、柴田貴行副委員長、 中島淳一委員、本宮一男委員、栗田尚弥委員、藤城憲児委員、 （欠席委員）加藤厚子委員 （事務局）富田文化スポーツ部長、多田文化推進課長、藤井課長 補佐、田中主査、前田主事
会議資料	会議次第 資料１－１ 茅ヶ崎市史編さん・特定歴史公文書等管理委員会委員名簿 資料２－１ 令和７年度事業報告 資料２－２ 市史講座資料（太平洋戦争開戦の日） 資料２－３ 令和７年度市史刊行物販売実績（通常販売） 資料２－４ 令和７年度市史刊行物販売実績（割引セット販売） 資料３ 茅ヶ崎の歴史に関する８０の疑問調査 資料４－１ 令和８年度事業計画 資料４－２ 令和８年度茅ヶ崎市史刊行物販売一覧 資料４－３ 令和８年度茅ヶ崎市史刊行物割引セット販売一覧 資料５－１ 令和１０年度以降における調査研究事業について（諮問別紙） 資料５－２ 令和６年度（答申写し）令和１０年度以降における調査研究事業について 資料６－１ 令和７年度特定歴史公文書等利用状況について 資料６－２ 令和８年度分科会審議スケジュール
会議の公開・非公開	一部非公開
非公開の理由	茅ヶ崎市情報公開条例第５条第１号の規定による
傍聴者数 （公開した場合のみ）	０人

●事務局（多田文化推進課長）

皆様、こんにちは。本日はお忙しい中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。これより「令和8年度第1回茅ヶ崎市史編さん・特定歴史公文書等管理委員会」を開催させていただきます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます茅ヶ崎市文化推進課長の多田と申します。よろしくお願いいたします。

それではこれから始めさせていただきます。

市長に代わりまして文化スポーツ部長の富田よりご挨拶を申し上げます。

●事務局（富田文化スポーツ部長）

改めましておはようございます。文化スポーツ部長の富田でございます。

本日はご多用のところ、またお足元の悪い中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。皆様方には、この茅ヶ崎市の市史編さん等に、長くそして深く、お関わりいただいているというように聞いております。我々にとって大変心強い、大先輩方でございます。

早速会議に入るわけですが、改めて、専門的な知見に基づく大変貴重なご意見等を頂戴できたらと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

●事務局（多田文化推進課長）

本日は、加藤厚子委員から欠席のご連絡を頂戴しております。6名の委員の皆様になりますけれども、よろしくお願いいたします。6名の委員の皆様にご出席をいただいておりますので、茅ヶ崎市市史編さん・特定歴史公文書等管理委員会規則（以降、本委員会規則と申し上げます）、第6条第2項に定める開催要件を満たしておりますことをご報告いたします。

また、傍聴の申し出はございません。

（委員自己紹介及び職員紹介）

（会議の運営方法について説明）

○北村委員長

お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。規則第6条の規定によりまして、議事進行を務めさせていただきます。

今回は議題が4つありまして、特に議題1の中の調査事業、茅ヶ崎市の歴史に関する80の疑問に関する結果の説明があります。今日は加藤先生はご欠席ということで、栗田先生の方からたっぷりとお話をいただければありがたいと思っております。

議題3の諮問に対して、大事な部分でありますので少し時間をかけさせていただきたいと思っております。議題1及び議題2についての事務局よりの説明は端的にお願いできればと思っております。

それではこれより議事に移らせていただきます。議題1、令和7年度の事業報告について議題といたします。事務局よりご説明をお願いいたします。

（事務局より「令和7年度の事業報告」について説明）

（栗田委員より調査事業「茅ヶ崎の歴史に関する80の疑問」についての説明）

質疑応答

○北村委員長

それでは皆様からのご質問等ございますでしょうか。

○栗田委員

質問というよりもちょっとびっくりしたのですが、セットでこんなに売れるのですね。今までは1年で1冊でも1桁出ればいいという状況だったのですが。

●事務局（多田文化推進課長）

セット販売につきましては、令和6年度から企画提案して、試行錯誤しながら周知しております。

7年度はLINEなどでも配信をして、チラシなどで周知を図りまして、その成果が出たかなというところと、あと一番大きかったのは有隣堂のラスカ茅ヶ崎店で1冊ずつビニールに入った状態で頒布させていただいているところが非常に効果としても大きくなったかなと思います。

また引き続き、在庫の方も売り切れのものが増えておりますが、引き続き頒布の方は頑張っていきたいなと思っています。

○栗田委員

どういう方が買われたのですか？セットで。

●事務局（前田主事）

セットにつきましては、市民で歴史の勉強会をやっているという方が、口コミで「セットで買うとお得だよ」と広げていただいたというところがあるようです。

○北村委員長

いろいろな形で、まず周知するというか知ることが第一ですので、そういう意味でこれからも事務局の方にはぜひそういうような形でのご努力をお願いしたいと思います。

その他どうでしょうか。

○藤城委員

茅ヶ崎の古文書の会の人も市役所で何人かで買わせていただいて、大変喜んでおります。

今、平塚市も1冊1000円程度で売っているんですね。最新刊は別として、できるだけ市民が手に取りやすいという形をいろんなところが模索しているのかなという感想を持ちます。セットになっている場合に、AとBとCとっていうふうになるわけですが、バラ売りの何割引とかいうチョイスできる売り方も必要かなというような気がします。こちらが考えてこういうのがありますと提示するのは親切ですけど、それとニーズがちょっと齟齬する部分も出てくるかもしれないので、その辺が一つ課題かなと思いました。

○北村委員長

ありがとうございます。

倉庫に眠らせておいても意味ないので、いろいろな形で、営利ではありませんので、アイデアがあれば出していただければと思います。

その他どうでしょうか。

○藤城委員

石上家文書が入ったということですけど、4ページのところですか、これはどういう形で収蔵されているのですか。

例えば寄贈文書があったときに、同じような古文書の収蔵先が市役所だったり博物館だったりするのではないかな、ということもあって、目録の公開、周知に関する問題です。

●事務局（多田文化推進課長）

石上家の古文書につきましては、市史史料集の第1巻に収められている『明治の巡査日記－石上憲定「自渉録」』の原本をすべて寄贈いただきました。経緯といたしましては、ご遺族の方から、後継者に引き継ぐことが難しいとのご相談がありました。古文書の件数は666点、我々の方では目録を作成し、原本の取り扱いができるように、保管をさせていただいています。

ただ、まだ一般の公開というところの準備をしている状況でございまして、現時点で目録の公開というところまでは至っていないところでございます。

こちらの資料につきましては非常に貴重なものということで私たちも承知しておるところでございまして、早く公開ができるように、引き続き準備を進めて参りたいと思います。

○北村委員長

ご苦労さまです。いろいろ大変でしょうけども、茅ヶ崎市にとってはかなり貴重な資料ですので、ぜひ一般公開ができる形に持っていただければというふうに思っております。

その他、どうでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは議題1は終わらせていただきます。

続きまして議題2、令和8年度事業計画について議題といたします。事務局よりご説明をお願いいたします。

（事務局より「令和8年度事業計画」について説明）

○北村委員長

ただ今、事務局より議題（2）の説明をいただきました。ご質問ございますか。

質疑応答

○栗田委員

『ヒストリアちがさき』と『茅ヶ崎市史ブックレット』もこの説明からいくと休刊ということになると思うのですが、この中で市民の関心をどう高める云々という、幅広くさらに親しまれると言いますが、茅ヶ崎でブックレットってかなり親しまれているんですね。

おそらく市内印刷だから、印刷物にしてもそんなに予算はかからないし、いざとなったらオンラインで公開するという手もあると思うんですよ。例えば、羽村市などは、以前は『羽村市と横田基地』などの報告書は印刷物で刊行していたが、今はオンラインで出している。それから国も、白書や外交青書などは紙でも出しているけども、一方で全部オンラインでリアルタイムで見られるんですよ。

市民で結構投稿したいという人もいるので、そういう人のニーズに応えるためにもやっぱり何らかの形でヒストリアを続けていくというのは、できるのではないかなと思うんですよ。

ブックレットというのは、ワンコイン（500円）以内で1冊買えて、しかもテーマごとで、みんなよく買っている。例えば大島英夫氏の本などはトータルだと1,000～2,000部ぐらい売れていると思う。だから人口比から考えれば、ものすごいベストセラーなんです

よ。学術書でも2,000部売れるなんてないですからね。だからそういう意味でも、やはり何らかの形で、ヒストリアをオンラインでもブックレットでもいいと思うんですけど、継続させたほうがいいと思うんですよ。これは続けろということではなくて、1つの提案として。

○北村委員長

ありがとうございます。いろいろな思いの中で行っている部分もありますので、付け加えてでも結構ですし、何かありましたら、どうでしょうか。

○藤城委員

まさにそうだなと。そのヒストリアについてのこの説明の文言を見たときに、ここ2年でやめて、そしてその後はデジタル化だろうと。でも編集してあとPDF化して、オンラインで載せるというのがさほどの手間ではないのではないかというふうに思って。

要するにビジュアル中心に、昔の茅ヶ崎市史研究みたいな学術誌ではなくてみんなに読んでもらえるというコンセプトでやっているの、そこでデジタル化したときに置いてけぼりになるのは高齢者なんですね。

ですから、もしデジタル化した場合でも、例えば、何十冊か、高齢者施設なり病院なりに冊子で配らないとお年寄りには読めない、楽しめないってということが生ずるので、もしデジタル化・オンライン化するにしても、そういうような形で市民サービスをしてくてもいいんじゃないかなっていうふうにも思います。それからブックレットについては『ちがさきと大岡越前』も相当売れている本で、手軽に350円で大岡越前が読める。値段が350円でたかだか50ページぐらいのものでしたら、ぜひ、もう品切れになってしまっているものも、できるだけ訂正すべきところは訂正して、チョイスして増刷していったらいいのではないかなと思いますけどね。

○北村委員長

はい。ありがとうございます。その他ございますか。

○栗田委員

市史研究とヒストリアを足すと、ちょうど49冊目なんですよね。来年度、市史の誕生50の節目なんですよね。そういう意味でも、せっかくその49まで続いたのだから、次は50、さらにその先をとということがあってもいいのではじゃないかなという気がします。

それからブックレットもやっぱり新しく作るのはいろいろ、お願いする先生に原稿料その他もあるかもしれませんが、そういう場合は例えば今売れている本の増刷であるとか、或いはちょっと書かれた先生が改めたいというところの改訂ですよね。それぐらいでしばらくつないでおくという手もあるのですよね。財政が好転するまで。

○北村委員長

ありがとうございます。今の話も、これからのことについていろいろ考える上では必要な検討材料になるかなと。

やはりこれまでの市史編さんの流れを止めないという意味でも、ぜひ事務局の方ではこの辺を検討していただいて、今の、栗田委員の話ではありませんけども、50年という1つの節目みたいなものもありますので、検討材料にぜひしていただいて、継続の方向になればいいなと思います。いろいろな課題ももちろん事務局としては持っていらっしゃると思いますので、さまざま加味しながらこの委員会の中で話し合いを続けていって方向づけができればというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

その他何かございますでしょうか。

○柴田委員

市内調査を継続して続けていただきたいというお願いです。

特にその商業関係って、個人がやっているところはもうやめられたらそれっきりお話も伺えないということがあると思うので、おそらくそういう情報をキャッチするのは役所の方のほうですが、早いんじゃないかなと思うので、そういった形で何か聞き取りにつなげていただけるようにしていただけるとありがたいなと思っております。

○北村委員長

ありがとうございます。聞き取りにつきまして何かご意見等、ございますでしょうか。

やはり最近町並みも随分変わってきてまして、そういう意味で目立つ部分ではあるのかなというふうに思っています。ぜひ、聞き取りというのも時間も段取りも大変でしょうけども、続けていただくということは大事なことかなと皆さん思っているんじゃないかなと思いますので、ぜひ、柴田委員のお話の中のようなことにつきましてお願いできればと思っております。よろしいでしょうか。

○栗田委員

今、柴田先生がご指摘になられたことをちょっと思い出したんですけども、これまでまさに50年間にわたって市史編集委員会がやってきた聞き取りの膨大なテープがありますよね。

全部文字起こすのは大変でしょうから、どういう人から聞き取りをしたぐらいの一覧表があると、ちょっと調べてみたいって人がいればわかると思うのですね。

ブックレットの中で関東大震災関連の本が2冊出ていますよね。1970年代、約50年前に災害対策の市の部局が、当時体験された方に綿密な聞き取りをされたんですよ。これが2冊ぐらいまとまっていて、ブックレットを作るときの貴重な資料、生の声だったのですよね。

要するに行政レベル、国とかではなくて、市民の方の声で、非常に役に立ったという、全国的にもあのような資料はないと思うのですよね。

だから聞き取りというのはぜひ重要ですので、お願いします。

○北村委員長

はい。今お話ありましたように、聞き取りにつきましては後々でも十分役に立つ部分もございますので、いろいろな形で残していかなければというふうに思っております。

その他ございますでしょうか。よろしいでしょうか。ないようでしたら、議題2を終わらせていただきます。

続きまして、議題（3）「令和10年度以降における調査研究事業について（諮問）」を議題とします。事務局より説明をお願いします。

（事務局より「令和10年度以降における調査研究事業について」・
「保存期間が満了する行政文書の廃棄について」諮問）

諮問について審議

○北村委員長

ただ今、事務局より説明をいただきました。

それでは、この3つの調査研究テーマの中から、令和10年4月以降の調査研究テーマを選ぶよう審議を開始いたします。皆様方の意見をぜひ入れていただきまして、絞れるような形になればよろしいかなと思いますので、ご意見の方よろしく願いいたします。

○栗田委員

いずれかにするというのは私は令和6年度は委員ではなかったので知らないのですが、委員会で決まったんですね。

それでしたらよいのですが、情勢に合わせて変更することも検討しているんですけど、私も80の疑問をやらせていただいて感じるんですけど、結構市民の方の教えて欲しいことっていろいろ多岐にわたっているんですよね。そういうのも参考にしながら、検討することも必要じゃないかなと、と思うんですよ。

○北村委員長

はい。ありがとうございます。

その他どうでしょうか。ご意見をたくさんいただきまして方向づけを。

○柴田委員

その前にちょっとお伺いしておきたいのが、例えば市史編さんと博物館、昔だったら文化資料館との棲み分けってあったと思うのですが、その辺りは今どのように市役所内部になられているのでしょうか。例えば、純水館であれば博物館のほうの冊子の方に一定の発表がすでになされてたりもするわけですよね。それをまたここで扱うのかどうなのかとかそういうのも関係すると思うのですが、いかがでしょうか。

○北村委員長

どうですか、今棲み分けというような話がありました。今後それぞれの関係機関が重複しないような形を考えていく必要があるのでは、という意見ですが、どうでしょうか、何かご意見等も踏まえまして、広げていただければありがたいのですが。

○藤城委員

なかなか悩ましいですね。平塚市は市史編さん室というのがあって、そこに古文書も相当たくさんあったんですよ。ただ、ずっと行われてきた編さん事業を終えて、『平塚市史 年表』を出した段階で、市史編さん室は閉鎖。市史に関しては博物館の学芸担当に一本化っていう形の方ですね。博物館でも文書がたくさん収蔵庫に入っているし、市史は市史で、またそれぞれいろんなのを持っているのですが、事業としては編さん室がなくなったみたいです。

要するに仕事内容がダブるところがあるので、その辺をどういうふうにやっていったらいいかというのは、やっぱり何か重要な問題じゃないかなと思います。

○北村委員

やはり棲み分けというのはある意味明確化していかないと、もしかしたらそういうような方向づけがなされる可能性もあると思いますので、事務局としては何かご意見等ございますでしょうか。

●事務局（多田文化推進課長）

ご意見ありがとうございます。

棲み分けというところでは、博物館の方には学芸員がおりまして、専門的な調査研究が可能であり、成果物として博物館の中でいろいろな企画が実施されているという状況でございます。

一方で、我々市史編さん担当におきましては、学芸員の配置がない中で、いろいろな聞き取りをし、蓄積ができるとしても、それを考察するのが難しい。

これまでの市史編さんについては、令和2年度まで研究会の方にいろいろとご尽力をいただいて、市史編さんを事業として担ってまいりましたが、令和3年以降、コロナ禍を経て、市史編さんアドバイザーの先生方のお力添えはいただいているのですけれども、なかなかその編さんというところにつきましては課題であります。本市の庁内の各関係課かいとどういう形で連携をして、今後の次世代の子供たちに継承していくのかというのは、棲み分けを含めて課題だと認識をしております。

○北村委員長

今事務局の方からいろいろなこれまでの課題も含めまして、今後の方向づけなどもいただいたのですが、やはり非常に難しい問題があるということで、委員の皆様方から出た部分につきましては、仕事内容、分担等を少しでも明らかにして、それぞれの領域を定めていくという方向をぜひお願いしたいというふうに思っております。

その他どうでしょうか。

○柴田委員

今のお話を伺いまして、そういったところの整理は時間がかかるだろうなというところもあるのですけれども、逆に市史の方の得意分野を生かすという観点で当面進めるんだということであれば、この3つの中からどれと言われたら私だったら商業史かなと思います。

○北村委員長

はい。ありがとうございます。

この3つのテーマに絞った部分が令和6年度においてあったと思うのですが、その辺の思いを含めまして、柴田委員の方から意見が出されました。その辺はいかがでしょうか。ご意見いただけるとありがたいのですが。

○栗田委員

さっき言ったように、市民の皆さんの要望を一番重視すべきだと思うんですが、もし選ぶとすれば、まず純水館は柴田先生がご指摘になられているように、博物館と重なる。それから音楽史の場合、茅ヶ崎ゆかりの人物館と重なるところがあると思うんです。そうすると消去法という言い方はおかしいけども、今まで市史の蓄積が何があるのかということで、やはり商業史かなという気はします。

単に商業のみならず、戦前の工業であるとか、そういうところまでやっていくと、結構幅広くできるのではないかという気はしますけどね。3つの中から選ぶとすれば、ですが。

○北村委員長

3つのテーマにこれまでの委員の中で絞られてきましたので、今のお話のようにこの中からということだと、商業史はどうでしょうかというようなお話が出ました。付け加えるようなことはございますでしょうか。何かご意見いただけるとありがたいですが。

○本宮委員

純水館は博物館じゃなくてゆかりの人物館ですかね。むしろ今は、博物館が音楽史。2年前に博物館の方で音楽史の方を企画されています。それぞれゆかりの人物館、博物館に打診していただくことが必要だろうと思います。特に音楽史に関しては市史の方は今まで特にやってきていないと思いますから。純水館に関しては市史の近代編で研究蓄積があり、その後の市史でも、研究を続けてきましたが、今はゆかりの人物館関係の方々がいろいろと頑張っておられるだろうと思います。

私もこの3つの中では、商業史を選択することになります。ただ、商業史ということだけじゃなくて、例えば「街（町）並み」という、そのような言葉もキーワードといいましょうか、考えてみることができるのではないかと思います。茅ヶ崎という地域社会がどういうふうに変わってきているのか、変わってきたのか。というようなことを念頭に、もちろん商店のこともあるし、いろんな施設のことにに関してまた情報を改めて収集し、その上で、どういう観点から茅ヶ崎という地域社会の変化をまた見てとれるのだろうか、ということを考えていってみるということです。今までやってきた市史編さん事業で相当な資料の蓄積がまだあります。いろんな聞き取りや何かに関しても、リストを作っているのですが、それがまだちゃんと伝わっていないということもあると思うので、それをもう一度確認していただいて。少し時間をかけて、かつて市史の担当をなさっていた職員の方々に可能な限りで、またいろんな情報を聞いていただくというようなことも必要、意味があるのではないかな、そんなふうにも思いました。

従って、商業史に関するものに、まずは目を向けて考えていくということでもいいかと思うのですが、ただ同時に商業史という言葉だけにとらわれないように、もう少しいろんな可能性を視野に入れた中で、また今後さらに検討されていくということも非常に重要じゃないかなと思いました。

○北村委員長

ありがとうございます。各委員からのいろいろなご意見が出ているのですが、その他どうでしょうか。

今の方向としてはこの3つの中から言うと商業というふうな形になっているのですが、商業という言葉にとらわれずに、という委員の皆さん方の、ご意見がございます。その辺は非常に重要なポイントかと思しますので、ぜひ酌み取っていただけるようお願いしたいと思います。

それでは貴重なご意見いろいろいただきました。ありがとうございました。

非常に意義あるお話をいただきました。今回のご意見を踏まえまして答申案を作成し、第2回の委員会にてご確認いただきまして、市長に答申するという形にしたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

続きまして、議題4「保存期間が満了する行政文書の廃棄について」を議題とします。事務局より説明をお願いします。

（事務局より「保存期間が満了する行政文書の廃棄について」について説明）

○北村委員長

ただ今、事務局より、議題（4）「保存期間が満了する行政文書の廃棄について」説明いただきました。議題（4）につきましては、「分科会の決議をもって委員会の決議とすることができる」とのことですが、ご意見ご質問はございますか。

（異議なし）

○北村委員長

それでは、議題（4）「保存期間が満了する行政文書の廃棄について」につきましては、分科会にて調査審議し、分科会の決議をもって委員会の決議とすることといたします。

○北村委員長

本日の議題は以上となります。委員会はこれで終了といたします。長時間にわたり貴重なご意見をいただきありがとうございます。今後とも皆様方のご協力をお願い申し上げます。

それでは、事務局にお返しいたします。

(事務局より事務連絡)

文化スポーツ部長より挨拶

●事務局（富田文化スポーツ部長）

改めまして、この4月に文化スポーツ部の方に着任いたしました富田です。

初めて今日この会議に出席させていただいたわけですが、これまで私もずっとスポーツ運動ばかりやってきた人間で、歴史とかですね、そういったものに極力かかわらないような人生を正直送ってきてしまっておりました。

そういった中で今日、委員の皆様からいろんなお話が聞けて、なるほどな、そういうことなのか、というところに多々気づかせていただいたところです。

今日は、私も会議にあたりまして、少し勉強しなきゃなと思って。これは茅ヶ崎市史の一番最初のものだと思うのですが、この中の序章というんですかね、当時の市長でおられた柗木一策市長が、このようにお話をしていました。少し長くなるのですが、読ませていただきたいと思います。

「私は将来歩むべき道と限りない未来を創造する施策のためには、豊かな過去の歴史を振り返る必要性を痛感して、祖先が残した尊い文化遺産の数々を保護し、或いはありのままの形で記録し、かつて茅ヶ崎の歩んできた過程を明らかにして、後世の人々に引き継ぐことが私達の責務であり、時宜を得た文化事業であると確信して、昭和47年4月、市制30周年記念事業の一環として、市史編さん事業に着手いたしました」ということなんです。今から約50年前ですか、市史編さんというものに茅ヶ崎市が一步踏み出したといった、歴史的なことなのかなというふうに思っております。

続けて、当時の市史編さん委員、編集委員、史料調査員各位の皆様の献身的なご努力により、5年間の年月を経て、ようやく昭和52年の秋に、こちらが広く市民に親しまれ、市民の理解と活用できるように工夫された、しかも学問的な内容で充実感に溢れた茅ヶ崎市史第1巻が刊行されたんだというようなことが書かれておりました。

繰り返しになりますけども、これが茅ヶ崎のまず市史編さんをやろうという原点であるし、改めて初心に返って私たちも携わらなければいけないのかなと思いました。一方で、今日の議論の中でもありましたけど、少し足踏みをしてしまうような状況もあったということを確認させていただいたところです。

でもやはりですね、歩みは止めてはいけないのかなということも感じているところでございます。時代に合った形でどのようにそれを残していくのか、ただ調べるということは、これ自体そんなに昔と変わらないことかもしれません。

先ほど聞き取り調査というお話もありました。本当に汗をかきながらでも、やらなきゃいけない部分は残るのですが、それを今風のやり方でどう残していくかっていうのはこれからまた皆さんと一緒に考えていかなきゃいけないのかなというふうに感じたところでございます。

感想ばかりになってしまいましたが、歴史に疎い私でもこれから何とか皆さんに食らいついてですね、ともに考えていければというふうに感じたところでございます。

またこれからも会議が続きます。皆様のお力とお知恵を頂戴することがあろうかと思えます。引き続きよろしくお願い致します。本日はどうもありがとうございました。

●事務局（多田文化推進課長）

本日はこちらで終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。お気をつけてお帰りください。